

都道府県・ 指定都市番号	35	都道府県・ 指定都市名	山口県	研究課題番号・校種名	2（3）小学校
				領域名	カリキュラム・マネジメント
研究課題	<b>学校全体で取り組む研究課題</b> （3）資質・能力を育むために、教育課程に基づき組織的かつ計画的に教育活動の質を高める実践研究（効果的なカリキュラム・マネジメントに関する実践研究）				
ふりがな 学校名（児童・生徒数）	しゅうなんしりつとくやましようがっこう 周南市立徳山小学校（649人）				
所在地（電話番号）	山口県周南市毛利町1-1（0834-22-8800）				
研究内容等掲載ウェブサイトURL	http://www.shunan.ed.jp/tokuyamasho/index.html				
研究のキーワード	カリキュラム・マネジメント 言語能力 「主体的・対話的で深い学び」の実現				
研究結果のポイント	<p>○ 年間カリキュラム表や、単元計画、発問等の工夫を行うことで、具体例を挙げたり仮説を立てたり、複数の事柄を比較、関連付けたりして、自分の考えを説明する子供や、既存の知識や経験と結び付けながら自分の考えを表現する子供が増えた。しかし、下学年では、順序が曖昧であったり、理由が適切でなかったりして、他者に考えが伝わらない場面が見られる。【創造的・論理的思考の側面】</p> <p>○ 不完全なものや、興味を喚起するもの等を提示することで、感じたことや想像したことを言葉で表そうとする子供が多くなった。しかし、高学年では、つぶやきや感情を表出することに抵抗がある子供もいる。【感性・情緒の側面】</p> <p>○ 話合いのよさを実感させたり、異なる意見を受け入れる学級づくりや授業の雰囲気づくりを行ったりすることで、自他の考えを比較、関連付けながら、自分の考えを広げたり、確かにしたりする子供が増えた。しかし、学級全体での話合いの際、自分の考えを表出できない子供や、話合いに参加できない子供が見受けられる場合もある。【他者とのコミュニケーションの側面】</p>				

## 1 研究主題等

### （1）研究主題

教科等横断的な視点に立ったカリキュラム・マネジメントの在り方  
 —学習の基盤となる言語能力の育成を軸にして—

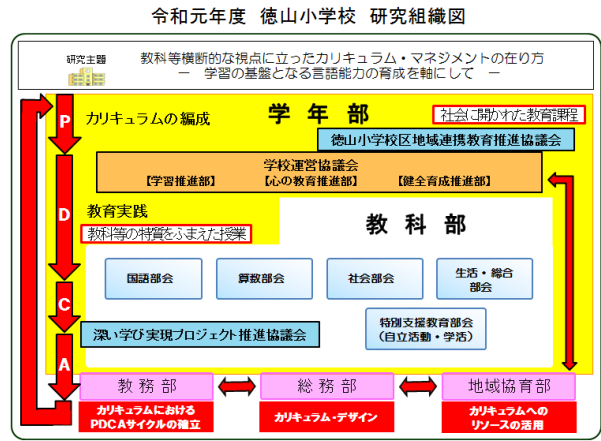
### （2）研究主題設定の理由

研究開始前の平成 29 年度末、本校の子供が抱える課題の分析に取り組み、「『判断の根拠の説明』や『論理的な説明』」等の課題が明らかになった。このような課題を解決するとともに、未来の創り手となるために必要な力を育む上で、本校の子供にとって大切にしたいことは何か。それは昭和 53 年から取り組んできた素読を始めとして、本校が伝統的に教育活動の中で重視してきた、言葉を大切にされた教育活動をより一層充実させていくことであると考え、子供たちに重点的に育成したい資質・能力を言語能力と定めた。

言語能力を育成するためには、言語能力がより一層働くような場面をつくるといった視点から、教育課程全体を見渡し、効果的に教科等横断的な教育課程を編成し、それを実施・評価し、改善していく「カリキュラム・マネジメント」の実現が不可欠であると考え、本研究主題を設定した。

(3) 研究体制

学年部と教科部（国語，算数，社会，生活・総合，特別支援教育）を軸に研究を推進してきた。学年部では，各学年で育みたい言語能力を考え，主に年間カリキュラム表の工夫改善や授業実践に取り組み，教科部では，教科等の特質に応じた言語能力を効果的に働かせた授業づくりについて取り組んだ。



(4) 2年間の主な取組

平成 30 年度	<p>4月 校内研修会 ・研究の意義や目標等に関する教職員の共通理解</p> <p>5月 第1回深い学び実現プロジェクト推進協議会</p> <p>6月 校内研修会 ・公開授業，菊池英慈調査官による指導助言・講話 校内研修会 ・言語能力の育成に向けたグランドデザインの作成</p> <p>7月 校内研修会 ・年間カリキュラム表及び年間指導計画の見直し 第1回徳山小学校区地域連携教育推進協議会 ※1学期末評価</p> <p>8月 校内研修会 ・2学期の公開授業に向けた指導案検討等</p> <p>9月～11月 校内研修会 ・公開授業，授業検討会 ・成果と課題の洗い出し</p> <p>10月 第2回深い学び実現プロジェクト推進協議会</p> <p>11月 第2回徳山小学校区地域連携教育推進協議会</p> <p>12月 中間発表会指導案作成，授業アイディアプラン作成 ※2学期末評価</p> <p>1月 中間発表会 (本校開催)</p> <p>2月～3月 第3回深い学び実現プロジェクト推進協議会 ※3学期末評価 校内研修会 ・来年度の方向性について</p>
令和 元 年度	<p>4月 校内研修会 ・研究の方向 ・言語能力の育成に向けたグランドデザインの見直し</p> <p>5月 第1回深い学び実現プロジェクト推進協議会</p> <p>6月～7月 校内研修会 ・公開授業，菊池英慈調査官による指導助言・講話 校内研修会 ・公開授業，授業検討会 ・成果と課題の洗い出し ※1学期末評価</p> <p>8月～9月 第1回徳山小学校区地域連携教育推進協議会 校内研修会 ・授業実践例，授業アイディアプラン，指導案の作成</p> <p>10月 研究発表大会 (本校開催) 第2回深い学び実現プロジェクト推進協議会</p> <p>11月～12月 校内研修会 ・研究発表大会の成果と課題等 ※2学期末評価</p> <p>1月～3月 校内研修会 ・年間カリキュラム表の見直し等 ※3学期末評価</p>

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ① 言語能力の育成に向けたグランドデザインの共有と活用
- ② 言語能力の育成に向けた年間カリキュラム表の改善と共有
- ③ カリキュラム充実のための仕組みづくり
- ④ 自己の学びをマネジメントする「つかむ」，「紡ぐ」，「育む」学習過程の工夫
- ⑤ カリキュラムのPDCAサイクルによる授業の質の向上

(2) 具体的な研究活動

① 言語能力の育成に向けたグランドデザインの共有と活用

子供の学習改善や教育活動の改善等に資するものにするために、以下のことに取り組んだ。

ア 国語科の「話すこと・聞くこと」の指導事項に基づく改善

イ 話し合いを活性化するための子供のアイデアの活用

ウ 保護者や地域の方との共有      エ グランドデザインの授業改善への活用

② 言語能力の育成に向けた年間カリキュラム表の改善と共有

各学年の学年目標や育てたい子供の姿を基に、グランドデザインの中から特に重点的に育成したい言語能力を明らかにして、年間カリキュラム表を改善していくこととした。手順としては、以下を踏まえ取り組むようにした。

ア 言語能力を育成する重点教科等、重点単元の設定

イ 効果的に言語能力を働かせるための三つのつながり

重点単元において、子供の表現する言葉がより確かになったり、より豊かになったりすることなどを期待して、「『話すこと・聞くこと』の指導事項とのつながり」、「他の重点教科等とのつながり」、「地域のリソースとのつながり」のうち、どのつながりにより、子供がどんな言語能力を働かせることを意図するのか明らかにするようにした。

③ カリキュラム充実のための仕組みづくり

学年部を中心とした教材研究や教材開発を促進するために、徳山小学校区地域連携教育推進協議会や、学校運営協議会にて、地域のリソースを紹介していただく場を設定した。

④ 自己の学びをマネジメントする「つかむ」、「紡ぐ」、「育む」学習過程の工夫

子供が思いや問いを抱き、自らの学習の目標や見通しをもっていく「つかむ」過程、子供が自他の考えを比較や関連付けなどして思考し、自分の考えを修正したり、立場を明確にしたりして、学習対象に対する考えを再構築していく「紡ぐ」過程、子供がその時点で学んだことを表現したり、新たな学びたくなる問いをもったりして、新たな学習へとつなげていく「育む」過程を1単位時間の授業や単元の中にバランスよく位置付けていくようにした。

⑤ カリキュラムのPDCAサイクルによる授業の質の向上

研究授業での成果や課題を洗い出し、次の実践につなげていくために、年間カリキュラム表の見直し、授業アイデアプランや目指す重点教科等の授業の作成等を行うようにした。

(3) PDCAサイクルへの取組について ※ ( ) は教職員の肯定的回答率

	質 問	肯定的回答率 7月 (%)	肯定的回答率 12月 (%)	比 較 (%)
①	自分の考えを分かりやすく表現することができている。	87.3 (90.6)	85.0 (90.6)	-2.3 (±0)
②	感じたことや想像したことを進んで言葉で表現することができている。	86.8 (80.6)	81.1 (93.8)	-5.7 (+13.2)
③	学級の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	90.1 (93.5)	90.2 (100.0)	+0.1 (+6.5)
④	授業で学んだことや知っていることを生かして、自分の考えをもつことができている。	92.7 (96.8)	92.8 (90.3)	+0.1 (-6.5)

グランドデザインに示した「教科等で育成する言語能力」に係る質問のうち、②は高学年の子供の肯定的回答率の低下が大きな要因である。③、④については昨年度から9割程度の肯定的回答率を保持しているが、話し合いによる考えの深化や拡充を実感させることや、学びのつながりを生かした単元構成等の工夫が着実に成果として現れてきている。

### 3 研究の成果と課題（○成果●課題）

<研究の内容について>

#### 【創造的・論理的思考の側面】

- 子供の思考や判断を促す発問をすることで、根拠や理由をもったり、中学年以上では具体例を挙げたり仮説を立てたりして、自分の考えを説明する子供が着実に増えてきている。
- 多面的・多角的に考える必要のある学習課題や、複数の事柄を比較したり複数の中から選択したりする場を設定することで、様々な立場や複数の事柄を比較、関連付けて自分の考えを構築する子供が増えてきている。
- 他教科等との関連や子供の生活経験を加味して、年間カリキュラム表や単元計画を工夫することで、既存の知識や経験と結び付けながら自分の考えを表現する子供が増えてきている。
- 下学年では、自分の考えを述べようとするが、順序が曖昧であったり、理由が適切でなかったりして、他者に考えが伝わらない場面が見られる。

#### 【感性・情緒の側面】

- 意図的に不完全なものや誤っているもの、興味を喚起するものを提示することで、「えっ」、「おかしい」、「なんで」など、疑問や驚きなどを表出し、感じたことや想像したことを言葉で表そうとする子供が増えてきている。
- 自分とは異なる考えに出会っても、「なるほど」、「そうか」、「すごい」など、共感や納得などを表出し、感じたことや想像したことを言葉で表そうとする子供が多くなってきている。
- 高学年では、つぶやきや感情を表出することに抵抗がある子供もいる。

#### 【他者とのコミュニケーションの側面】

- 話し合いを通して、新たな考えが生み出されたり、考えが深まったりするなど、話し合いのよさや楽しさを実感させることで、自他の考えを比較、関連付けながら、自分の考えを述べようとする子供が増えてきている。
- 異なる意見を受け入れる学級づくりや授業の雰囲気づくりを行うことで、他者の話を聞いて、「そんな考えは思いつかなかった」、「それも考えられる」、「そういう考えもあるけれど、～」など、友達の考えを受け止めて、自分の考えを広げたり、確かにしたりする子供が増えてきている。
- 話し方や聞き方の指導を充実させていくことで、「～ですよね」、「ここまでは分かりますか」と、聞き手の反応を見ながら話したり、友達の話を聞いて、「〇〇さんは、～が言いたいのだと思います」、「〇〇さんが言っているのは、～ということです」と、自分の言葉で表現できたりする子供が増えつつある。
- ペアや小グループでは進んで話せるが、学級全体の話し合い活動では、自分の考えを表出できない子供や、話し合いに参加できない子供が見受けられる場合もある。

<研究の推進について>

- 重点的に育成したい資質・能力である言語能力により教科等の横断を図った。
- カリキュラム・マネジメントの取組を授業レベルまで落とし込んでいる。
- 今年度活用した地域のリソースは、来年度以降にも効果的な活用が期待できる。
- 発達の段階を踏まえた授業づくりのために、言語能力の系統を整理する必要がある。

### 4 今後の取組

持続可能な取組とするために、育成したい言語能力の系統を整理することやグランドデザインの改善、年間カリキュラム表の改善、研究組織の再編成等取り組んでいく。その際、これまで同様、各取組が「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりに確実につなげられるよう留意する。